

平成 26 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1490700091	事業の開始年月日	平成21年10月1日
		指定年月日	平成21年10月1日
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター洋光台グループホームほほえみ		
所在地	(〒 235-0045) 神奈川県横浜市磯子区洋光台3-16-32		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成26年8月18日	評価結果 市町村受理日	平成26年11月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>駅から3分という好立地にもかかわらず、閑静な住宅街にあるホーム。駅周辺には多くのスーパーが立ち並び、ほぼ毎日ご利用者様と買物やお散歩に出かけています。</p> <p>「拘束をしないホーム・明るい笑顔のあるホーム」を事業所理念とし、毎日朝礼で唱和を行っています。</p> <p>常に行為・言動が拘束につながっていないかを確認し、ご利用者様が毎日笑顔でお過ごしいただける様なケアを行っています。</p> <p>職員のスキルを向上させる為に、定期的に研修も実施しています。</p> <p>また、地域に根付いたホームづくりを目指し、学校や保育園との交流を実施し、数多くの地域ボランティアの協力を得バラエティにとんだレクリエーションを行っています。</p>
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目-10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成26年9月9日	評価機関 評価決定日	平成26年11月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、JR根岸線洋光台駅から徒歩約3分の大通りから少しは入った住宅街にある。付近は緑豊かな住宅地で車両の通行が少なく、もの静かな環境である。周辺には病院や歯科医院などがあり、駅付近には大型スーパーマーケット、銀行、レストラン、各種商店、公園などがあり生活上の様々な面で恵まれた環境にある。</p> <p>建物は木造2階建てで、玄関は広く椅子などが置かれ靴の脱着が楽に出来る。2階に行く場合は、車椅子対応のエレベーターや手すりが両側に付けられた広い階段を利用できる。内部は全面バリアフリーで、リビングは床暖房で対面式キッチンが配置されリビングの様子がよく見える。一角に和室があり利用者が畳でくつろいだり、乗客の接待やミーティングにも活用している。1階はリビングに隣接して広いウッドデッキが設置され、庭に下りることができる。庭には畑があり、利用者の中の経験者が、野菜を植え草取りなど手を加えて収穫まで担当している。採れた旬の野菜は食材として利用されている。</p> <p>昨年度より、共用型通所介護を併設し2~3名の利用者を受け入れ、入居者と馴染みの関係になっている。</p> <p>【理念の実践】 「拘束をしないホーム」「明るい笑顔のあるホーム」という理念は、職員が認識し共有してサービスに活かされている。利用者の行動を物理的に制限しないことは元より、言葉によってその人のやりたいことや思いを封じることがないよう心がけている。居室、ユニット、玄関は、夜間や利用者の安全確保が必要な場合を除いては施錠をしていない。不意の外出には、職員が連携し見守りなどで対応している。サービスに当たってはいつも明るい笑顔で話しかけたり接したりして、利用者の意向を汲み取って待たせたり放置しないように心かけている。</p> <p>【社会資源の活用】 事業所周辺は、大型店舗や施設・公園などの社会資源に恵まれているので、それらを利用して外出を兼ねた生活リハビリを実施している。またボランティアは、ハーモニカ、バイオリン、オカリナなどの楽器演奏、ハンドマッサージ、傾聴、草むしりなど多岐にわたる。物作りなど参加型ボランティアもあり、利用者を楽しませている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンター洋光台
ユニット名	ひまわり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に暮らす一員として、明るく笑顔で毎日の生活が送れるよう毎朝の朝礼で理念を唱和し共有し意識を高め実践を心がけている。	事業所の理念「拘束をしないホーム」「明るい笑顔のあるホーム」を事務室に掲げている。職員は朝礼で唱和して共有し、常に明るい笑顔で声をかけ利用者の意向に沿うよう心がけている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内とのつながりを持っている。防災訓練には町内会長をはじめ、町内の方にも参加いただき交流を持っている。また保育園、中学校とも交流の機会を持っている。	町内会の夏祭りに職員が綿菓子づくりのボランティアとして参加し、利用者も出かけて楽しんだ。小学生や保育園児と行き来するなど交流している。楽器演奏から草むしりまで様々なボランティアが来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年1回開催される「ニチイ祭り」では地域の方をホームにご招待し、事業所内部の見学、説明などを実施しグループホームをご理解いただける機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者のご家族、地域ケアプラザ所長様、町内会長様を交えての運営推進会議を行いサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者・家族、町内会長、地域ケアプラザ所長、管理者、ユニットリーダーで構成されている。議題は職員の異動、行事や活動報告、共用型通所介護の説明などで、参加者の意見を聞いたり質疑応答を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要があれば連絡をとり、協力的体制関係が築けるよう心がけている。	磯子区高齢福祉課に運営推進会議の議事録を直接届けて担当がいれば事業所の状況を伝えている。区が主催する感染症研修などに職員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束をしないホーム」という事業所理念の理解を深める為、研修をおこない、社外研修にも参加し、日々取り組んでいる。	理念に「拘束をしないホーム」とあり、職員は拘束排除について常に念頭に置いてケアしている。玄関、ユニット入口、居室の鍵はかけていない。利用者の状況により一時的に施錠することがある。不意の外出に備え家族の了承を得て地域の徘徊ネットワークに登録している方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修をおこない、ネグレクトや言葉による虐待についても理解を深め、スタッフ一人ひとりが意識を持って防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全員のスタッフが学ぶ機会はありませんが、管理者、リーダーは必要に応じて支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に重要事項説明書を開示し、入居前に不安や疑問点をお聞きし、できるだけご要望にお応えし、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族様の要望には常に耳を傾ける姿勢を心がけ、ご家族様ご来苑の際はスタッフ、管理者がお話を伺える時間を設けている。	家族の電話連絡や来訪時などに、意向や要望を聞き取るようにしている。家族の要望により、日常の居室の清掃の他に年3回ほど大掃除の日を定めて徹底的に清掃している。家族会は介護保険法や料金改定時に開催している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、定期会議において常にスタッフの意見や提案を聞き反映させられるようにしている。	管理者は、日頃から職員の要望や提案を聞き取るように務めている。毎月の全体会議やユニット会議などでも意見を述べる機会がある。キャリアアップ制度で定期的な面談がありその際に希望を聞いている。外食の実施やレクリエーションの企画について職員の提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を実施し、勤務形態、時間数、夜勤の負担などのヒアリングを行い離職防止、把握に努めている。モチベーションアップにつながるキャリアアップ制度を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアアップ制度の他、個々に見合った研修やトレーニングができるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支店での研修に職員が参加でき、他拠点の職員と交流が持てるような機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後はご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、計画作成担当者と連携をとりケアプランの見直しを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、できる限り不安を取り除くよう配慮しながら信頼関係作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、お手伝いいただけることをできるだけ一緒に行い、感謝の言葉をかけ、アットホームな共同生活の場を築き、関係性を保つよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事を通してご家族と絆を深め、思い出作りの場面を設け、共にご本人を支えていく関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後はご本人のお話を聞く時間を多く持ち、カンファレンスや申し送りにより情報共有をおこない、計画作成担当者と連携をとりケアプランの見直しを行う。	近隣の理容室に度々通うことにより、馴染みの関係になった方がいる。かかってきた電話を取り次いでいる。手紙や年賀状が届いた場合は一緒に読むなど、これまでの人間関係の継続を支援している。宗教上の知り合いが来訪した場合は、居室に案内してお茶を出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時からご要望をお聞きする時間を多くとり、ご本人の様子をご家族に電話連絡し、信頼関係作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居面談より、ご本人と話をし「こうしたい」「こうなりたい」などの希望や要望をお聞きし、共有しながら支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日の生活の中で傾聴する時間をできるだけとるよう心がけ、ご本人の思い、希望、「こんなふうに過ごしたい」などの意向を汲み取れるよう努めている。	日頃のサービスの中で言葉を交わし、どのように暮らしたいか、何をしたいかなどを聞き取っている。言葉が出にくい方は家族に聞いたり、仕草や動作を見て把握している。出来るだけ外に出たいという利用者の意向に沿って、散歩の回数を増やしたり買い物に同行したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの話し、アセスメントなどから生活歴などを把握し支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や排泄・水分チェック表などの帳票を活用し、一日の過ごし方、心身状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーをまじえたカンファレンスにおいて、ご本人、ご家族の意向、医療機関などの意見も反映させ現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は、利用者ごとの状況や家族の希望を考慮して作成している。計画の実施状況は記録され、毎月のカンファレンスで居室担当者が情報をとりまとめて意見を述べている。計画の見直しは、3～6か月または状況の急変時に実施している。必要に応じて医療情報を収集し、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌、申し送りノートなどの帳票を利用し、連絡を密にとり、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体の重度化により発生する個々のニーズ、その他状況の変化により生まれるニーズに出来る限り柔軟に対応し支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加、活動支援により一人ひとりが持っている力を出来る限り発揮し、楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が月2回ある。ご家族希望のかかりつけ機関があった場合は情報提供体制をつくり、円滑にいくよう心がけている。	協力医療機関の往診は月2回、訪問歯科診療は必要に応じて随時実施している。訪問看護は週1回来訪し健康管理などを行っている。入居前からのかかりつけ医の診療は原則として家族が対応し、診療記録は家族から聞き取っている。緊急時や家族が対応できないときは事業所が支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の看護師の訪問があり、受診記録などにより連携を密に取り適切な受診を受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院関係者の話しを一緒に聞き、ご本人、ご家族が不安なくできるだけ早期に退院できるよう支援し、日頃から良い関係作りを実施している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針についてご説明し、ご本人やご家族の意向に沿って出来る限りの対応をおこなっている。	入居時に「重度化した場合における対応に係わる指針」を説明して同意を得ている。重度化が進み方針に沿って家族・主治医・管理者と希望に沿うよう話し合い、医師と連携し、家族とも情報共有して看取った事例がある。看取りの実施状況を、毎年1回開催される法人の事例検討発表会で発表した。	医療関係者や看取り経験者による研修で、他の職員とも看取りの基本的知識や心構えを共有すること、「重度化した場合における対応に係わる指針」を職員に説明し周知を図ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、研修を行い、連絡網や対応についても確認をおこなっている。救急救命講習参加者のスタッフもいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署員、地域の方をまじえての防災避難訓練（夜間も含む）を実施し、災害時の対応に備えている。	防災訓練は年2回実施し、初期消火や通報訓練などを行っている。地域住民も参加している。地震想定訓練や夜間想定訓練には消防署員が立ち会っている。災害備蓄は、水や食糧などを3日以上保有している。勤務時間帯ごとに、通報担当など災害時の職員の役割が決まっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保についての研修を行っている。個人情報保護のテストも毎年実施。言葉かけは、信頼関係が成り立った上での気軽な言葉かけをするスタッフもいるが、個々により違いはある。	毎年プライバシー確保の職員研修を行い、個人情報保護に関するテストを実施している。職員の言動で気になることがあったときは初心に戻ろうと声をかけ研修を実施している。書類は事務所内の施錠できるロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様が、遠慮なく希望や思いを伝えられる関係、雰囲気作りを行い、いくつかの中から選んだり、決定したりする場面も作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	カンファレンスの時間を使い、「その人らしさ」について話し合い、個々のペースにあった支援をするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人希望の理美容に行き、使い慣れた化粧品を使い、ご本人の意向に合った身だしなみやおしゃれができるよう支援している。訪問理容により、毛染めやカットもホームでできるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様とスーパーに食材を買いに行き、調理、盛り付け、片付けなどお手伝いしていただいている。また、畑に野菜を植え、食材として利用し喜びを共有している。	職員が利用者の希望を取り入れて約3日分の献立を決めている。食材は利用者も同行して近所で購入している。畑で利用者が育てた季節の野菜も使っている。職員は同席して同じものや持参の弁当を食べながら介助している。調査時には、利用者が下膳や食器拭きを手伝っていた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量をすべて帳票に記録し把握することにより、脱水症状などの予防している。個々の状態により食事形態を変え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科あり。義歯の不具合などにも対応でき、定期検診により口腔内チェックも行うようにしている。毎食後の口腔ケアも支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、パットへの失禁が多い場合には、誘導時間を替えてみるなどし、トイレでの排泄をできるだけ促すよう行っている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見てさりげなく誘導している。職員は、できるだけトイレでの排泄ができるよう促している。きめ細かい誘導により失禁を少なくした事例がある。トイレは扉の色を変え、床にマークを付けて分かりやすくしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、適度な運動、お腹のマッサージなどにより、できる限り自然排便を促している。便秘が続いたときは、医師の指示を仰ぎ、薬により調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間は毎日設けているが、拒否があった場合は、ご本人の意向を伺い、時間を変えたり曜日を変えたり、毎日入浴したりと個々に応じた対応ができる体制を整えている。入浴ができない場合は清拭、足浴で対応している。	入浴は原則として週2回午前中に実施しているが、利用者の希望により回数や時間は柔軟に対応している。入浴を好まない方は、声かけの方法を変えたりシャワー浴や足浴に変更している。入居後は慣れるまで同性介助をすることがある。季節を感じる柚子湯や菖蒲湯を楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や心身の状態に応じて、いつでも休息や睡眠がとれる環境づくりを行い、必要な方は褥瘡予防のため、午前、午後と居室で横になっていただく時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は見やすいようにファイリングしてあり、副作用についてもいつでも閲覧し確認できるようになっている。研修によりご利用者が服用している薬について理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野、嗜好などアセスメントやご本人、ご家族からもお聞きし、一人、一人に合った楽しみごと、役割を持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の買物や散歩で外出する機会をできるだけ多くつくり、希望に沿った支援を行っている。	事業所の方針で地域に親しむため、可能な限り毎日散歩や買い物に出かけている。歩行困難な場合や車椅子の利用者にも対応している。女子会と称して、女性同士で近所のパン屋でお茶を飲みながらパンを食べ、おしゃべりを楽しんでいる。利用者の状態に応じて、少し遠い公園に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり、好きなように使うことはできるが、日常的に所持はしていない。希望に応じて所持も支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	申し出があればいつでも電話をかけられるような体制をつくり支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間、居室はすべてバリアフリーでドアと床は色分けし混乱のないよう配慮している。玄関は季節ごとに飾りを替え季節感を味わえるような配慮を行っている。	リビングは広く採光が良くて明るい。一角にある和室では畳の好きな利用者が昼寝をすることもある。気分転換のためテレビやテーブルの位置を変えることもある。リビングの壁に利用者が作った赤富士の貼り絵やイベントの写真、日めくりカレンダーが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し、自由に座り、会話を楽しめる環境づくりをしている。和室もあり、くつろげる空間作りに配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は使い慣れたベットやタンスをお持ちいただき、できるだけ居心地よく馴染みの空間を作り、心地よく生活していけるよう工夫している。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、カーテン、スライド式ハンガーが常備されている。利用者は、ベッドや寝具、チェスト、姿見、ぬいぐるみなど馴染みのものを持ち込んでいる。清掃は毎日職員と利用者が一緒に行っている。居室表示は大きな文字の名前で分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	持っている力を発揮できる場面を作り、安全でできるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニライケアセンター 洋光台

作成日

H26.11.12

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	外部評価 12	肩取りの基本的知識 や心構えを 職員全員で共有 していく。	肩取り経験者 だけでなく 全員で周知を 図る。	全体会議中の 職員研修で 資料を使い肩取り 研修を実施する	年内
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。